

令和5年度 水稲研究室 試験計画概要

中課題	小課題	細目課題	研究内容	新継年次別
水稲良質安定多収品種の育成 (昭58～)	気象変動に強く高品質安定栽培が可能な品種の育成	—	気象変動に強い(高温耐性や耐冷性に優れる)、穂数型の品種を育成する。胴割れや茶米などの品質劣化がしにくく、刈取適期幅が広い品種を育成する。	継 続 昭62～
	みどりの食料システム戦略に即した品種(少農薬、少肥料、省力)の育成	—	病虫害複合抵抗性を有する系統、直播適性が高い系統、標肥以下でとちぎの星以上の玄米品質と収量性を有する系統、良質早生系統を育成する。	継 続 平20～
	フードバレー対応(加工原料)品種の育成	—	「山田錦」並みの酒造適性を有し、栽培性が優れる酒米品種、その他特徴的な品種(超多収、加工業務向け、輸出向けなど)を育成する。	継 続 平18～
	水稲特性検定試験	—	いもち病検定、穂発芽性検定、縞葉枯検定、白葉枯病検定、ヨコバイ抵抗性、モンガレ病抵抗性、耐冷性検定、食味検定、餅硬化性、高温登熟性、胴割れ検定等を実施、特性を把握する。	継 続 昭58～
水稲の品質向上のための生育診断・予測技術の確立 (昭61～)	水稲生育診断基本調査	—	水稲主要品種の生育状況を調査・データベース化し、生育診断・予測技術開発のための資料を得る。	継 続 昭61～
	ドローンによる生育診断・予測技術の確立および「とちぎの星」の収穫適期の検討	NDVI値と生育診断値の検討	特殊カメラ搭載ドローンで撮影した測定値と草丈・茎数・葉色・窒素吸収量との関係を明らかにし生育・診断予測技術を確立する。	継 続 令3～5
		「とちぎの星」における可変基肥による収量向上効果及び化学肥料削減効果の検討	前年度の収量マップをベースにブロードキャスターによる基肥の可変施肥を行い、ほ場内の生育均一化、収量向上への効果を検討する。	継 続 令4～5
		「とちぎの星」の収穫適期の検討	「とちぎの星」の出穂期からの積算気温と収穫適期について検討する。	継 続 令3～5
		全量基肥栽培における追肥技術の検討	全量基肥栽培における追肥の判断基準及び効果を確認する。	継 続 令3～5
輸出等に対応した品種選定と低コスト稲作体系の構築	多収品種における適正な肥培管理の確立	—	「にじのきらめき」「夢あおば」において、目標収量(早植栽培720kg/10a)を得られる肥培管理を確立す	継 続 令4～5
	多収品種における高密度播種、疎植を組み合わせた低コスト安定多収栽培技術の確立	—	高密度播種、疎植を組み合わせた栽培により、育苗管理の省力化、資材費の削減を図り、かつ、多収となる栽培法を確立する。	継 続 令4～5
生育に応じた培土時追肥による大豆増収効果	中耕培土時追肥による増収効果の検討	—	中耕培土時追肥による増収効果及び省力効果を明らかにする	新 規 令5～6
水稲の優良品種の選定 (昭28～)	水稲奨励品種選定調査	—	水稲の系統(うるち、飼料用米)について予備調査、本調査を実施し、奨励品種候補を選定する。	継 続 昭28～
麦・大豆の良質多収品種の選定 (昭25～)	大豆奨励品種選定調査	—	大豆の系統について予備調査を実施し、奨励品種候補を選定する。	継 続 昭58～
生育調整剤・除草剤の適応性試験 (昭38～)	水田の雑草防除試験	—	主に多年生雑草を対象に、配付薬剤について除草効果及び水稲への薬害等を判定し、適用性を調査する。	継 続 昭38～